



【!】 未来完了形では、基準となる未来の時点を次のような表現で表す。

when S' +V' 「S' が V' すると、するとき」

if S' +V' 「もし S' が V' すれば、したら」

by the time S' +V' 「S' が V' がするときまでに」

この場合、時や条件を表す副詞節内の動詞は現在形を使う

(► p.82) が、〈未来のある時点〉を表していることに注意。



14 The rain **will have stopped** by noon. 95

正午までに、雨は止んでいるだろう。

15 I **will have watched** that movie three times if I *watch* it again. 96

もう一度その映画を見ると、3度見たことになるだろう。

16 The teacher **will have taught** at this school for thirty years *next year*. 97

先生は来年で、この学校で30年教えたことになるだろう。

17 The teacher **will have been teaching** at this school for thirty years *next year*. 先生は来年で、この学校で30年教えていることになるだろう。 98

《1》 未来のある時点までの完了・結果 (14)

類例 The population of the area **will have doubled** by 2050.

2050年までにこの地区の人口は倍になるでしょう。

The kids **will have gone** to bed by the time you *come* back home.

あなたが帰宅する頃には、子どもたちは寝床に着いているでしょう。

※ by the time ... は時を表す副詞節なので現在形が使われている。

《2》 未来のある時点までの経験 (15)

類例 I **will have been** to Hawaii three times when I *visit* there again next month. 来月再訪したら、私がハワイを訪れるのは3回目となる。

※ when ... は時を表す副詞節なので現在形が使われている。

《3》 未来のある時点までの継続 (1) (16)

状態動詞の場合、未来完了形 (will have done) の形で、未来のある時点までの継続



Grammar in Writing

過去と現在を行き来する現在完了形

たとえば「失敗から得られた教訓」というお題で英文を書くとします。最初の1文をどのように書くとよいでしょうか。

1) I **made** a terrible mistake two years ago. 2年前ひどい失敗をした。
のように、いきなり過去の失敗談で始めることもできます。
しかし「教訓」がテーマですから、

2) I **have learned** the importance of listening to others from a terrible mistake I **made** two years ago.

2年前にしたひどい失敗から、他人の言うことに耳を傾けることの大切さを学んだ。
のように始めると、文章の着地点 (=教訓) を最初に示すことができるので文章全体のまとまりが良くなります。

このとき動詞の時制を見てみると、2) では現在完了形→過去形という順序になっています。現在完了形は過去のできごとが現在に何らかの影響を及ぼしていることを表す時制ですので、「過去の経験から現在につながる教訓を得た」と言うのに適しています。
そうやって現在から過去への「橋渡し」をしたうえで、「では、具体的にはどのような経験だったのか?」という部分については過去形で述べていくことになります。たとえば次のように続けることができます。

2a) I have learned the importance of listening to others from a terrible mistake I made two years ago. I **was** in the third year of junior high school and busy preparing for the high school entrance exams. One day my homeroom teacher **told** us about how to apply for some private high schools. She **explained** many things about the documents we **would need**, and my classmates **were listening** very carefully ...

助動詞の過去形 (would) や過去進行形 (were listening) も過去形の一種です。ある出来事について述べる際、このように最初は現在完了形で話題を導入しておいて、起きた事実は過去形で述べていくという順序で時制を組み合わせることがよくあります。また、そのように過去について述べたうえで、再度話を現在に引き戻したいときにも現在完了形を使うことができます。たとえば上の文章の最後を次のように書いて締めくくることができます。

2b) ... This mistake taught me that I could not do everything by myself. Since then I **have** always **been trying** to listen to others and take

advice from them when I **do** something important.

このように現在完了形は文章の中で過去と現在を行ったり来たりするときに活躍する時制なのです。

Grammar in Writing

過去完了形は「踏み台」とともに



過去完了形はどういうわけか使いすぎる間違いが多い項目です。単なる過去形でよいのにわざわざ過去完了形を使う誤りがよくあります。

1a) × I **had seen** the movie three times when it was showing.

その映画は上映されている時に 3 回見た。

正しくは、

1b) I **saw** the movie three times when it was showing.

のように単純な過去形で表します。

過去完了形が適切なのは次のような場合です。

2) Kate invited me to her apartment to see *The Dream Time* on Blu-ray.

Unfortunately I **had seen** the movie three times before, so I told her I would not go.

ケイトが『ザ・ドリーム・タイム』をブルーレイで見ようって家に誘ってくれた。残念なことに、その映画は 3 回も見たことがあったので私は行かないよってケイトに伝えた。

つまり過去の出来事をいったん過去形 (invited) で述べた後、それよりもさらに過去のことについて述べる場合に過去完了を使います。過去完了形は過去形を「踏み台」にしてさらに過去のことを述べるのに使う形なのです。この「踏み台」なしに過去完了形を使うことはできません。